

## 『地球環境への負荷低減』と『経済性』の両立

### 大型トラック「日野プロフィア」 軽量・低燃費エンジンシリーズを一新

2007年4月9日、大型トラック「日野プロフィア」の軽量・低燃費エンジンシリーズに、新開発エンジン「A09C」<sup>1</sup>を搭載し、平成17年(新長期)排出ガス規制適合車として発売。これにより日野は大型トラック「日野プロフィア」、中型トラック「日野レンジャー」、小型トラック「日野デュトロ」においてクリーンディーゼルシステム「DPR」搭載 新長期排出ガス規制適合車をラインアップしました。



\*1:新型「A09C」(総排気量8.9L)は従来エンジン「P11C」(総排気量10.5L)の後継として新開発した直列6気筒ターボインタークーラー付きディーゼルエンジン。先行発売している「E13C」(総排気量12.9L)と同様、「低回転・高トルク・低燃費」のエンジンコンセプトに基づき、低回転域から高トルクを発揮させることで、8.9Lという排気量を感じさせない走行性能を発揮。環境性能と燃費性能の両立とともに、小型・軽量化により、積載性の向上にも貢献。

### 大型ハイブリッド路線バス 「日野ブルーリボンシティハイブリッド」の 燃費基準適合車発売

2007年7月18日、大型ハイブリッド路線バス「日野ブルーリボンシティハイブリッド」を“重量車の平成27年度燃費基準”<sup>1</sup>に適合させ発売。「日野ブルーリボンシティハイブリッド」を2005年にいち早く平成17年(新長期)排出ガス規制適合車として発売しましたが、今回、重量車の平成27年度燃費基準もクリアさせて発売。また、同車は平成17年(新長期)排出ガスの規制値に対してNOxおよびPMの排出量を低減させた“低排出ガス重量車”にも適合しているため、自動車取得税の軽減<sup>2</sup>ならびに国土交通省の補助<sup>3</sup>の対象となります。



\*1:「路線バス【区分5】車両総重量14t超～」の目標基準値を達成。

\*2:ハイブリッド車は、本年9月以降、燃費基準達成および低排出ガス重量車の認定取得をもって取得税が2.7%軽減されます。

\*3:ハイブリッド車は本年度より低排出ガス重量車認定(NOx・PM10%低減)取得が条件。

## 日本の日野から 世界のHINOへ

### 米国で2番目の日野トラック組立拠点を新設

2007年6月26日、米国の製造子会社である日野モーターズ マニュファクチャリング U.S.A.株式会社の北米専用トラック<sup>1</sup>の組立拠点をウエスト・バージニア州に新設を決定。

米国における北米専用トラックの販売台数増加に対応する生産能力の増強と、米国内における完成車両の物流効率化を図るため、米国ではカリフォルニアに続き2番目、北米では3番目となる同車の組立拠点を新設するものです。

\*1:クラス4～7(車両総重量6.3～14.9t)の日野ブランドのボンネットタイプトラック。

### コロンビアにおけるトラック生産会社設立

2007年8月1日、「コロンビアにおけるトラック生産会社設立」のための合併契約を、三井物産株式会社とコロンビアの日野車販売代理店のDIDACOL社の3社間で締結。新合併会社の名称は日野モーターズ マニュファクチャリング コロンビア株式会社。

2008年9月の生産開始を目指しコロンビア共和国コタ市に新工場を建設し、コロンビアおよびエクアドル向けに中・小型トラックを生産する予定です。

### 小型トラックでメキシコへ新規参入

2007年8月2日、メキシコで小型トラック「HINO 300シリーズ」(日本名「日野デュトロ」)<sup>1</sup>の販売開始し、メキシコ市場へ新規参入しました。メキシコでの販売は、先に三井物産株式会社が設立した「日野モーターズ セールズ メキシコ株式会社」を通じて行います。

\*1:クラス4(車両総重量6.3～7.2t)に該当。

米国 ウェスト・バージニア州●

メキシコ メキシコシティ●

コロンビア コタ市●